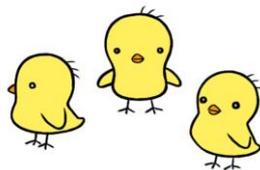


ひよこだよ



都立大塚ろう学校 乳幼児教育相談
平成30年6月1日 NO. 3

「聞こえ」そして「聴くこと」

5月に保護者講座「聞こえについて」を開催しました。耳の構造図を用いながら難聴についての基本的な説明、オーディオグラムの読み取り方についてお話しした後は、御自分のお子さんのオーディオグラムから平均聴力レベルを実際に求めていただきました。

講座の後半は「家庭でできる補聴器の管理」について、実際にお子さんの補聴器を手にとりながら学んでいただきました。毎日、使っている補聴器ですが、基本的な構造や日常のお手入れ、簡単なトラブル対応についてきちんと知り、特に乳幼児期は、家庭で補聴器をしっかり管理していくことの大切さを、改めて感じましたとの御感想をいただいています。幼稚部になったら、大人の見守りや言葉がけの元、お子さん自身で補聴器の電池チェックや装用・保管ができるように、今の段階から一緒に管理に取り組んでいきましょう。

上記の様に補聴器をしっかり管理することと同様に大切なことが、補聴器や人工内耳の調整です。お子さんに合った調整のためには、聴力検査の結果に加えて、日常生活での聞こえの反応の様子が重要な情報になります。そこで、お父さん・お母さん方がお子さんの聞こえについてしっかり把握し、お子さんが心地よいと感じている音や嫌いな音、最近気付き始めた音など、身近な方だからこそ知ることのできる情報を、担当者と共有してくださることは、とても大切です。

補聴器・人工内耳の管理と調整が適切になされた後は、お子さんに音をどのように届けるかの工夫が必要になります。お子さんにとって補聴器をつけはじめてからしばらくは、どんなに意味がある音でも雑音にしか聞こえません。はじめは雑音として入ってくる音について、音の意味をそれぞれ結びつけて聴くことができるようになるには、お子さんと一緒に聴くことを楽しみ、共感してくれるお家の方の丁寧な関わりが必要です。聴いてイメージを形成しやすい音声・生活音・音楽などを用いて、それぞれのお子さんの聴く意欲を伸ばすと共に、音源を確認するための実物・写真や絵カード、音のイメージを作りやすくするための手話やジェスチャーなどを積極的に活用すると良いでしょう。

では、具体的にどのようにお子さんの聴く意欲を高め、音の意味付けを促していったら良いのでしょうか。乳幼児教育相談に長年関わってきたスタッフに、これまでの経験を振り返って、授業や個別支援の中でお子さんが特に喜んで取り組んだ「おとあそび」について聞いてみました。



S 先生のおすすめ「おとあそび」

お菓子の箱を2つ使って、片方にはお菓子を入れ、もう片方は何も入れずに、箱を振ってガサガサという音を手がかりに「お菓子があるのはどっち？」というゲームは人気がありました。当たるとお菓子がもらえるので、お子さんは張り切って取り組んでいました。また、箱を缶に替えたり、中に入れるお菓子を替えたりすると、様々な音で楽しめますよ。

T 先生のおすすめ「おとあそび」

いろいろなおもちゃや身近な物で「これはどんな音が出るかな？」と、音探し遊びをしました。そうして一緒に遊んでいると、お子さんがどんな音(高さ・大きさ)が聞こえたり、好きだったりするのかを知ることができます。お家の方も、まずは、お子さんの聞こえや音の興味について把握することから始めてみましょう。電車が好きだったら、ホームや高架下へ、働く車が好きだったら工事現場へ。きっと聴きたい・聴こうとする気持ちがより高まるでしょう。



スタッフの話からも分かるように、「聴く意欲や力を高めるための『おとあそび』だから、何か特別なものを準備しなければ！」と構えなくても大丈夫です。日常生活の中にあるお子さんにとって身近なものや興味のあるものに注目し、そこにまつわる音を丁寧に扱い、お子さんとお家の方が共感しながら聴くことが大切なのですね。

(文責 神谷)